

横田基地、多国間訓練「降下訓練始め」に参加 *Yokota participates in multilateral New Year's Jump exercise*

January 9, 2023

By Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

1月8日、千葉県の習志野演習場で米陸軍、米空軍、英陸軍、豪陸軍、陸上自衛隊が、多国間訓練「降下訓練始め」を実施した。

同訓練では、約400人の空挺隊員が米空軍第36空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ3機、航空自衛隊のC-130Hハーキュリーズ1機、C-2グレイハウンド1機からパラシュート降下を行った。

第36空輸中隊パイロットのケヴィン・メンデズ中尉は、「降下訓練始めは、陸上自衛隊が主催する年始行事で、同盟国のパートナーと新年を迎え、継続的に航空安全を祈願する伝統として行われている」と述べた。

新型コロナウイルスのパンデミック以来、今回初めて多国籍部隊が結集し、年頭の開傘を祝しながら同盟国とのパートナーシップを新たにした。

第11空挺師団参謀長クリストファー・ワード米陸軍大佐は、「この降下訓練始めは、パートナー国同士が学び合い、共に向上する機会だ」と述べ、「年頭を祝う多国間降下訓練を行うだけでなく、太平洋管轄区域で空中作戦を共同で実践する能力を向上させる意図がある。こうした訓練は準備態勢の強化につながる」と語った。

チームワークは、小規模なチームから大規模な統合部隊の作戦に至るまで、あらゆる軍力の根底であり、毎年恒例のこの行事は、柔軟な同盟の相互協力維持への取り組みである。こうした兵力と能力の誇示は、敵対勢力に対する抑止力として、またパートナー部隊との永続的な友好の証となっている。

「我々の目標は、こうしたパラシュート降下訓練を通じ、国際的な同盟国との相互運用性を強化することだ」とメンデズ中尉は述べ、「今回のような統合訓練は、実際の有事の際に米軍と自衛隊の相互運用性を高めるのに役立つ」と言及した。

自国と国際パートナー部隊との戦闘即応態勢と友好関係の強化を目指すチーム横田にとって、「降下訓練始め」は一連の二国間訓練の幕開けである。

